

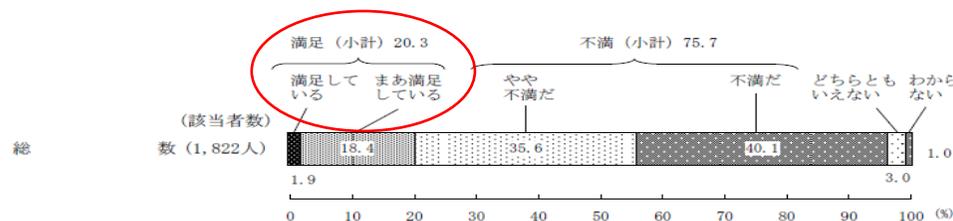
社会保障に関する国民意識等

社会保障に関する国民意識等① 満足度関係

社会保障制度に対する満足度

平成 20 年 7 月

・満足 (小計)	20.3%
・満足している	1.9%
・まあ満足している	18.4%
・不満 (小計)	75.7%
・やや不満だ	35.6%
・不満だ	40.1%
・どちらともいえない	3.0%
・わからない	1.0%

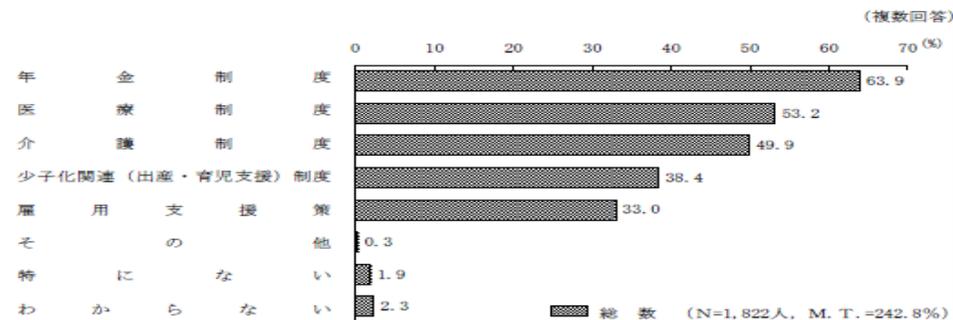


出典:平成20年 内閣府「社会保障制度に関する特別世論調査」

社会保障制度の中で緊急に改革に取り組むべき分野(複数回答)

平成 20 年 7 月

・年金制度	63.9%
・医療制度	53.2%
・介護制度	49.9%
・少子化関連 (出産・育児支援) 制度	38.4%
・雇用支援策	33.0%

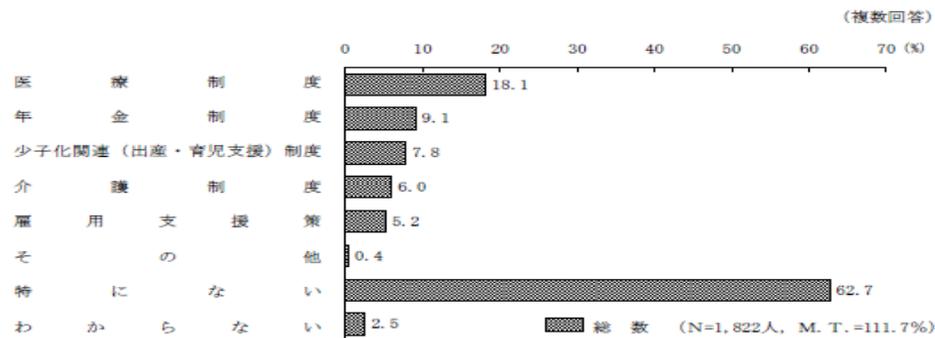


出典:平成20年 内閣府「社会保障制度に関する特別世論調査」

社会保障制度の中で満足している分野(複数回答)

平成 20 年 7 月

・医療制度	18.1%
・年金制度	9.1%
・少子化関連 (出産・育児支援) 制度	7.8%
・介護制度	6.0%
・雇用支援策	5.2%
・特にない	62.7%

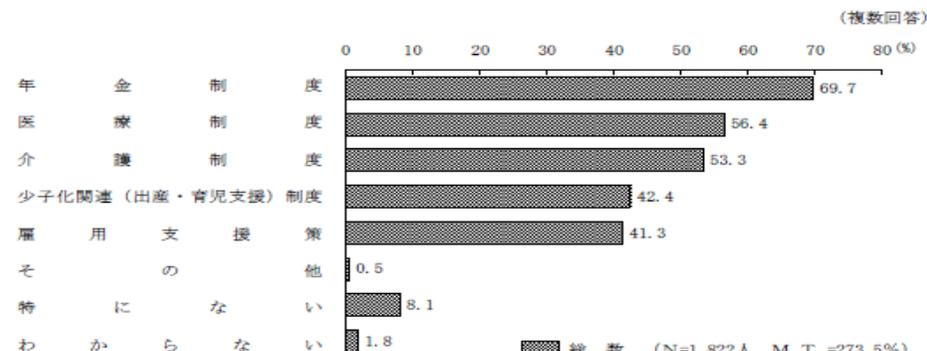


出典:平成20年 内閣府「社会保障制度に関する特別世論調査」

社会保障制度の中で満足していない分野(複数回答)

平成 20 年 7 月

・年金制度	69.7%
・医療制度	56.4%
・介護制度	53.3%
・少子化関連 (出産・育児支援) 制度	42.4%
・雇用支援策	41.3%



出典:平成20年 内閣府「社会保障制度に関する特別世論調査」

社会保障に関する国民意識等② 知識入手手段、給付と負担関係

これまで社会保障の知識を得た手段(複数回答)

	全体	新聞	テレビ・ラジオ	インターネット	書籍・雑誌	パンフレット	広報・連絡・問い合わせ	公的機関等への勤務先・学校	家族・知人	その他	調べたことがない	無回答
全体	1,342	886	886	350	323	534	442	421	499	21	66	2
	100.0	66.0	66.0	26.1	24.1	39.8	32.9	31.4	37.2	1.6	4.9	0.1
20歳代	146	60	71	51	24	27	25	60	68	-	19	-
	100.0	41.1	48.6	34.9	16.4	18.5	17.1	41.1	46.6	-	13.0	-
30歳代	217	113	128	100	48	59	64	103	95	2	7	1
	100.0	52.1	59.0	46.1	22.1	27.2	29.5	47.5	43.8	0.9	3.2	0.5
40歳代	230	144	145	77	52	85	71	93	89	1	11	-
	100.0	62.6	63.0	33.5	22.6	37.0	30.9	40.4	38.7	0.4	4.8	-
50歳代	234	171	167	64	59	105	92	79	77	4	10	-
	100.0	73.1	71.4	27.4	25.2	44.9	39.3	33.8	32.9	1.7	4.3	-
60~64歳	169	131	128	21	57	88	79	38	67	5	1	1
	100.0	77.5	75.7	12.4	33.7	52.1	46.7	22.5	39.6	3.0	0.6	0.6
65~69歳	128	100	89	23	33	64	47	23	41	5	5	-
	100.0	78.1	69.5	18.0	25.8	50.0	36.7	18.0	32.0	3.9	3.9	-
70~74歳	108	83	78	6	28	48	25	14	33	3	5	-
	100.0	76.9	72.2	5.6	25.9	44.4	23.1	13.0	30.6	2.8	4.6	-
75~79歳	110	84	80	8	22	58	39	11	29	1	8	-
	100.0	76.4	72.7	7.3	20.0	52.7	35.5	10.0	26.4	0.9	7.3	-

資料：厚生労働省政策統括官付政策評価官室委託「社会保障に関するアンケート調査」(2010年度)

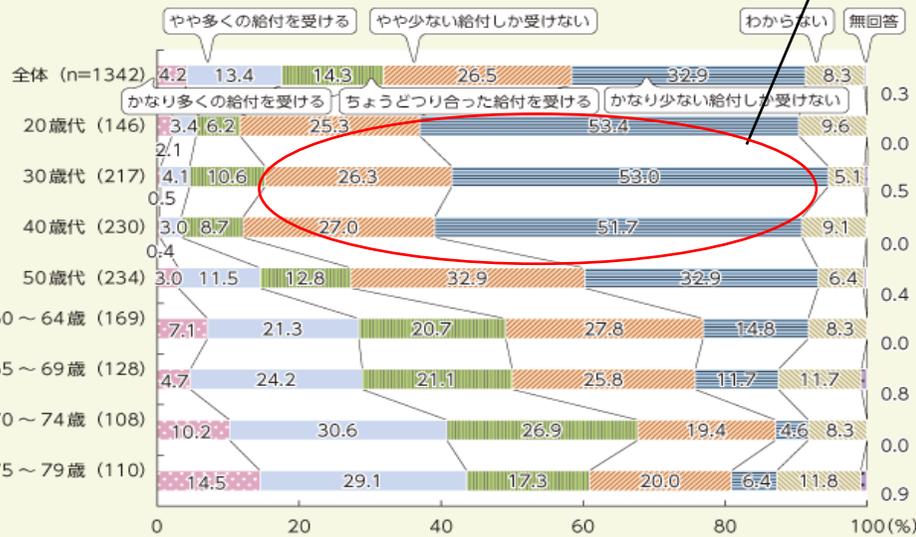
出典：平成23年度 厚生労働白書

- ・どの年代も「新聞」「テレビ・ラジオ」から知識を得る割合は高い。
- ・「勤務先・学校」で社会保障の知識を得た者が若い世代であっても、半数に満たない。
- ・20歳代では、「調べたことがない」が13.0%もの割合を占めている。

・年代が下がるにつれて、給付より負担が多くなると感じている傾向が現れている。

- ・「現状は維持できない」が6割を超え、特に若い世代で「現状は維持できない」と回答する傾向がある。
- ・現役世代の負担は限界に近づきつつあり、国の財政も厳しい状況にあることについて、国民が認識していることがうかがえる。

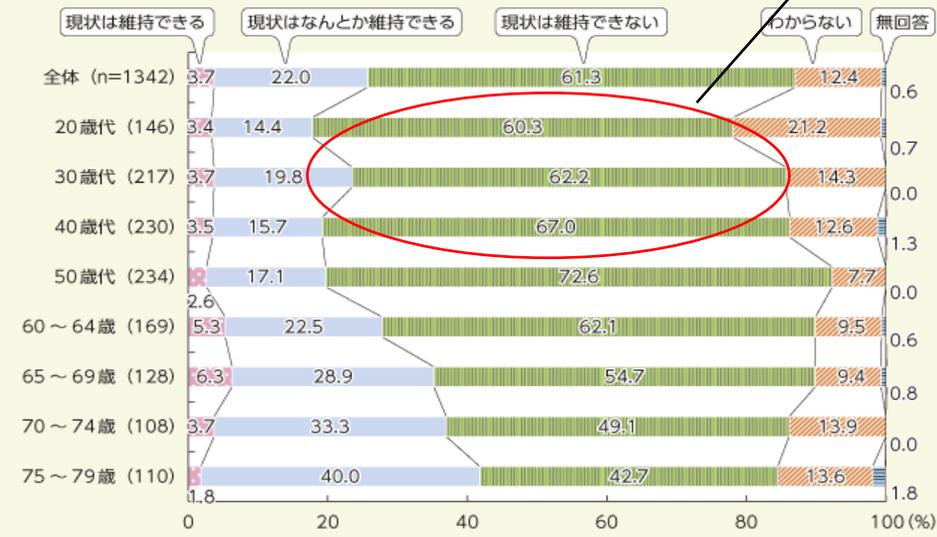
一生涯における給付と負担のバランスに関する各世代の意識



資料：厚生労働省政策統括官付政策評価官室委託「社会保障に関するアンケート調査」(2010年度)

出典：平成23年度 厚生労働白書

今後の社会保障の給付内容について思うこと

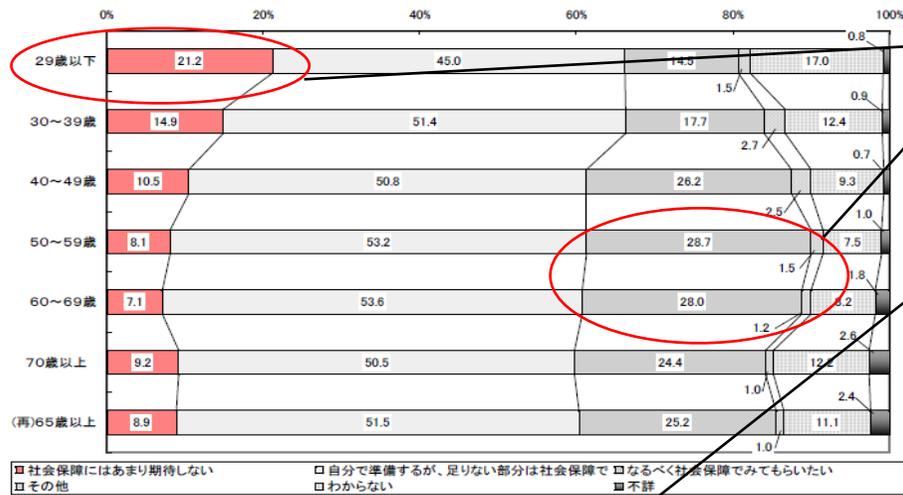


資料：厚生労働省政策統括官付政策評価官室委託「社会保障に関するアンケート調査」(2010年度)

出典：平成23年度 厚生労働白書

社会保障に関する国民意識等③ 給付と負担関係

老後生活と社会保障の関係について



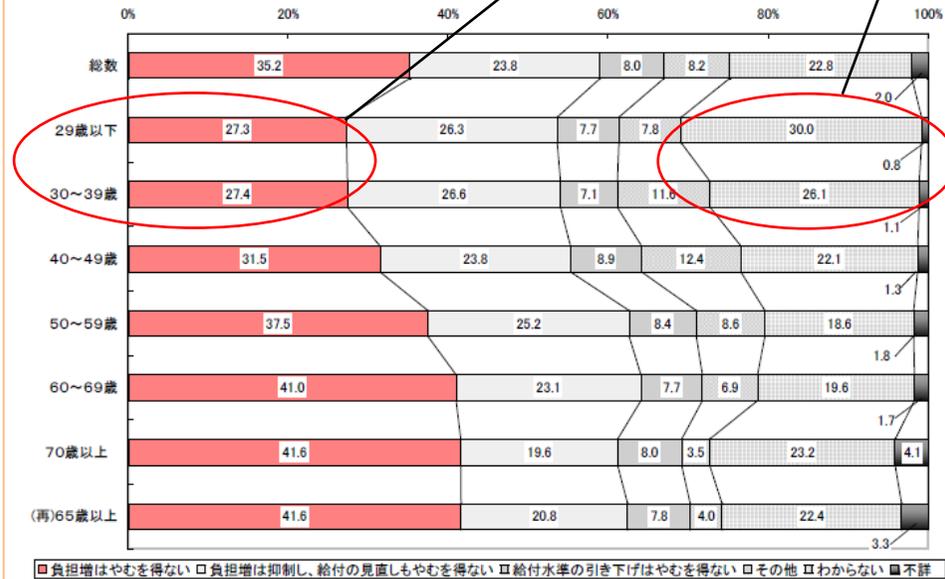
・若い世代では、「社会保障にはあまり期待しない」、高年齢層では、「なるべく社会保障でみてもらいたい」の割合が高い。

・若い世代では、「負担増はやむを得ない」の割合が低い他、「わからない」の割合が高い。

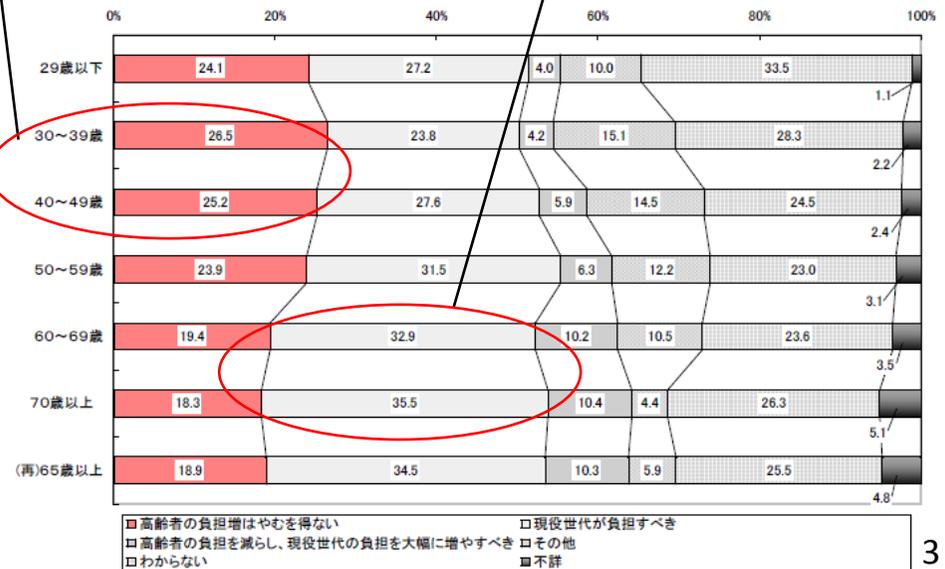
・若い世代では、「高齢者の負担増はやむを得ない」の割合が高く、高年齢層では、「現役世代が負担すべき」の割合が高い。

出典：平成18年 厚生労働省「高齢期における社会保障に関する意識等調査報告書」

社会保障の給付と負担について



年齢階級別にみた少子高齢化が進行する状況での社会保障の負担の考え方について



出典：平成18年 厚生労働省「高齢期における社会保障に関する意識等調査報告書」

出典：平成18年 厚生労働省「高齢期における社会保障に関する意識等調査報告書」

社会保障に関する国民意識等④ 年金関係

年齢階級別にみた老後の生計を支える手段として1番目に頼りにするもの

(単位: %)

	総数	自分の就労による収入	配偶者の就労による収入	国民年金や厚生年金など、公的年金	勤務先の企業年金	貯蓄または退職金の取り崩し	子どもなど親族からの援助や仕送り	家賃や銀行の利子などの資産収入	個人年金	その他	不詳
総数	100.0	20.7	7.3	57.9	1.2	6.4	0.9	0.7	0.7	1.1	3.1
20~29歳	100.0	35.2	7.0	37.8	1.5	12.1	0.4	0.3	1.0	1.4	3.3
30~39歳	100.0	31.1	11.0	40.4	1.5	10.8	0.2	0.2	1.3	0.6	2.9
40~49歳	100.0	24.5	9.0	50.6	1.7	9.0	0.3	0.5	0.6	1.0	2.9
50~59歳	100.0	22.3	9.0	56.3	1.4	5.9	0.5	0.6	0.6	1.0	2.5
60~69歳	100.0	16.5	6.4	67.5	0.9	2.8	0.8	1.0	0.6	0.3	3.2
70歳以上	100.0	5.9	3.0	78.1	0.4	2.3	2.7	1.3	0.5	2.0	3.9
(再)65歳以上	100.0	7.7	3.6	76.9	0.5	2.3	2.1	1.3	0.5	1.5	3.7

・年齢が若くなるにつれ、「公的年金」を頼りにする割合が低い。

・年齢が若くなるにつれ、「公的年金のみで充足できるだけの水準を確保すべき」割合が低い。

・国民年金は、現実の老齢年金受給は将来のものであり、医療と異なり直ちに受給が困難になるというものでないことから、納付率が低い。

・国民年金の納付率の低下については、若い世代を中心に年金制度への信頼感が揺らいでいるとの指摘がある。

出典: 平成21年 社会保障における公的・私的サービスに関する意識等調査報告書

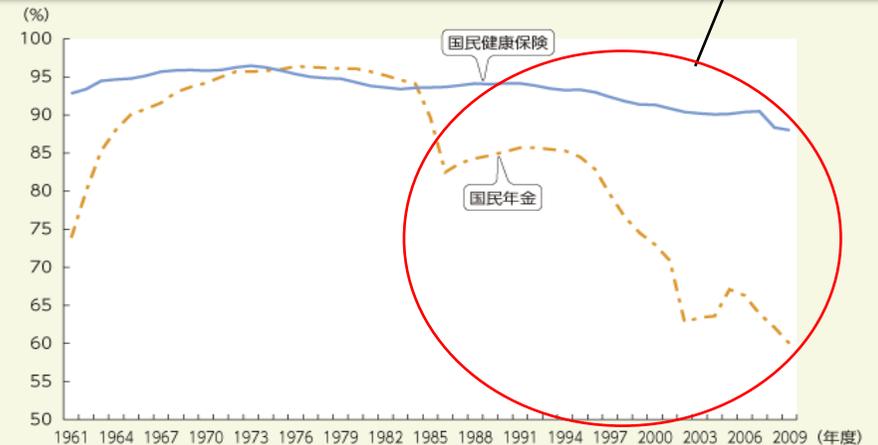
年齢階級別にみた今後の生活をささえる年金給付等のあり方について

(単位: %)

	総数	公的年金に要する税や社会保険料の負担が増加しても、老後の生活は公的年金のみで充足できるだけの水準を確保すべき	公的年金を基本としつつも、その水準は一定程度抑制し、これに企業年金や個人年金、貯蓄などを組み合わせて老後に備えるべき	企業年金や個人年金、貯蓄などで老後に備えることを基本とするべき	その他	不詳
総数	100.0	43.1	42.2	5.6	3.9	5.1
20~29歳	100.0	34.4	48.9	8.1	3.9	4.7
30~39歳	100.0	35.5	48.7	5.7	5.0	5.1
40~49歳	100.0	36.9	47.9	5.5	6.0	3.7
50~59歳	100.0	44.2	43.4	4.5	4.0	3.8
60~69歳	100.0	50.4	36.4	4.8	3.2	5.2
70歳以上	100.0	50.2	34.2	6.0	2.2	7.5
(再)65歳以上	100.0	50.5	34.6	5.6	2.4	6.9

出典: 平成21年 社会保障における公的・私的サービスに関する意識等調査報告書

国民健康保険、国民年金の収納率の推移



資料: 厚生労働省保険局「国民健康保険事業年報」、旧社会保険庁「事業年報」

(注) 【国民健康保険】

1. 収納率は、居所不明者分調定額を控除した調定額を用いて算出している。(小数点第2位未満四捨五入)
2. 2000年度以降の調定額等は、介護納付金を含んでいる。また、2008年度以降は75歳以上の者等が含まれていないため、2007年度以前との比較には留意が必要。

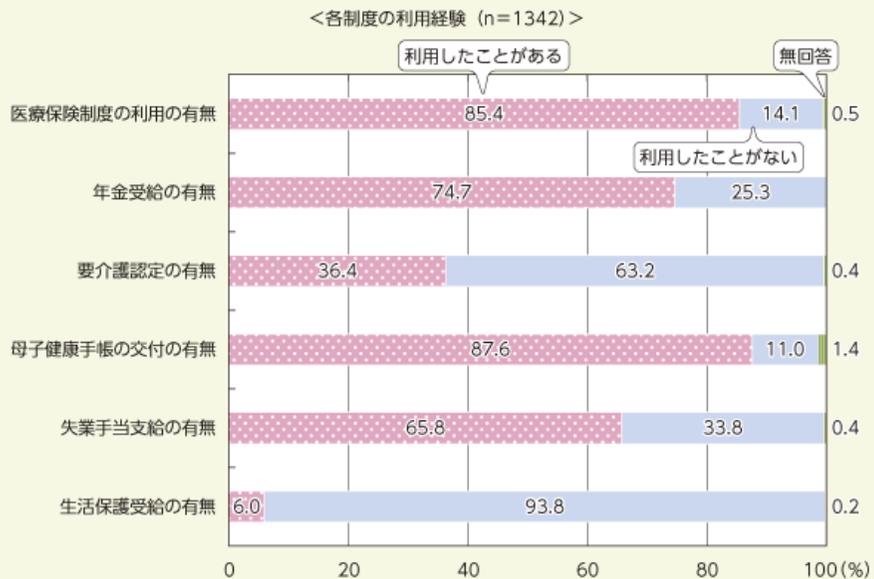
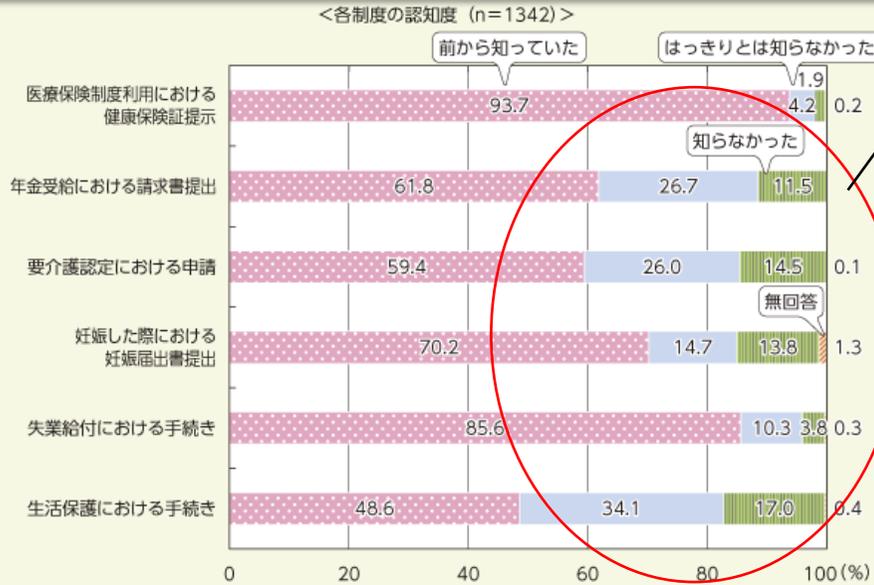
【国民年金】

1. 納付率とは、納付対象月数に対する納付月数の割合である。
2. 2001年度以前は検認率(「検認実施月数累計」に「現金前納月数累計」を加えた月数を、「検認対象月数累計」で除したもの)である。

出典: 平成23年度 厚生労働白書

社会保障に関する国民意識等⑤ 制度の認知度関係

社会保障制度の認知度と利用経験

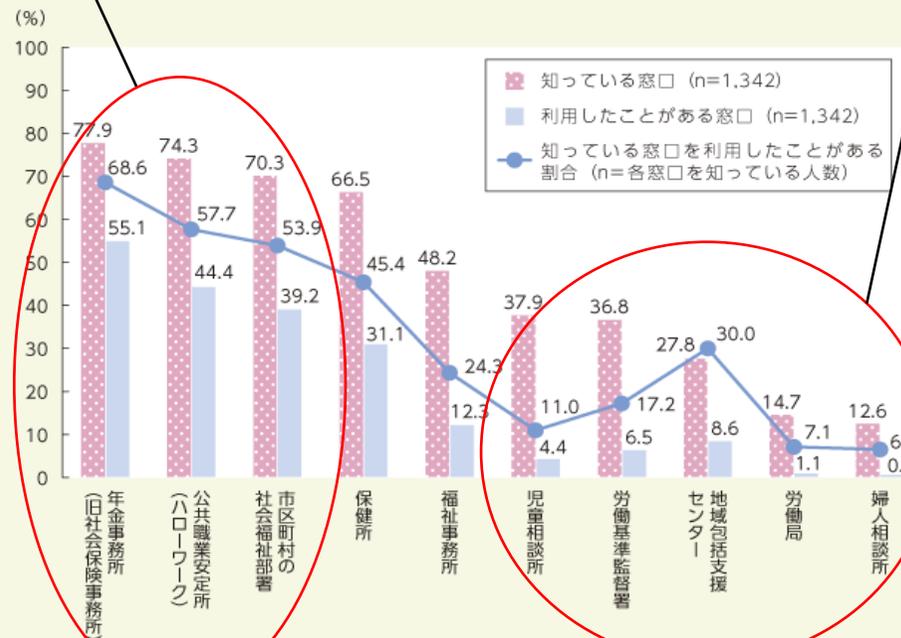


資料：厚生労働省政策統括官付政策評価官室委託「社会保障に関するアンケート調査」(2010年度)

- ・医療保険制度利用における健康保険証の提示の必要性については、高い認知度を示している。
- ・年金受給における請求書の提出の必要性や、要介護認定における申請の必要性については、半数をやや上回る。
- ・制度の利用の有無別にみると、実際に利用したことのないものについては、あまり認知されていない。

- ・利用した窓口は知っているという一般的傾向がある。
- ・生活に直結する年金事務所、市町村窓口は認知度が高いが、児童相談所や労働関係の機関については認知度が高いとはいえない。

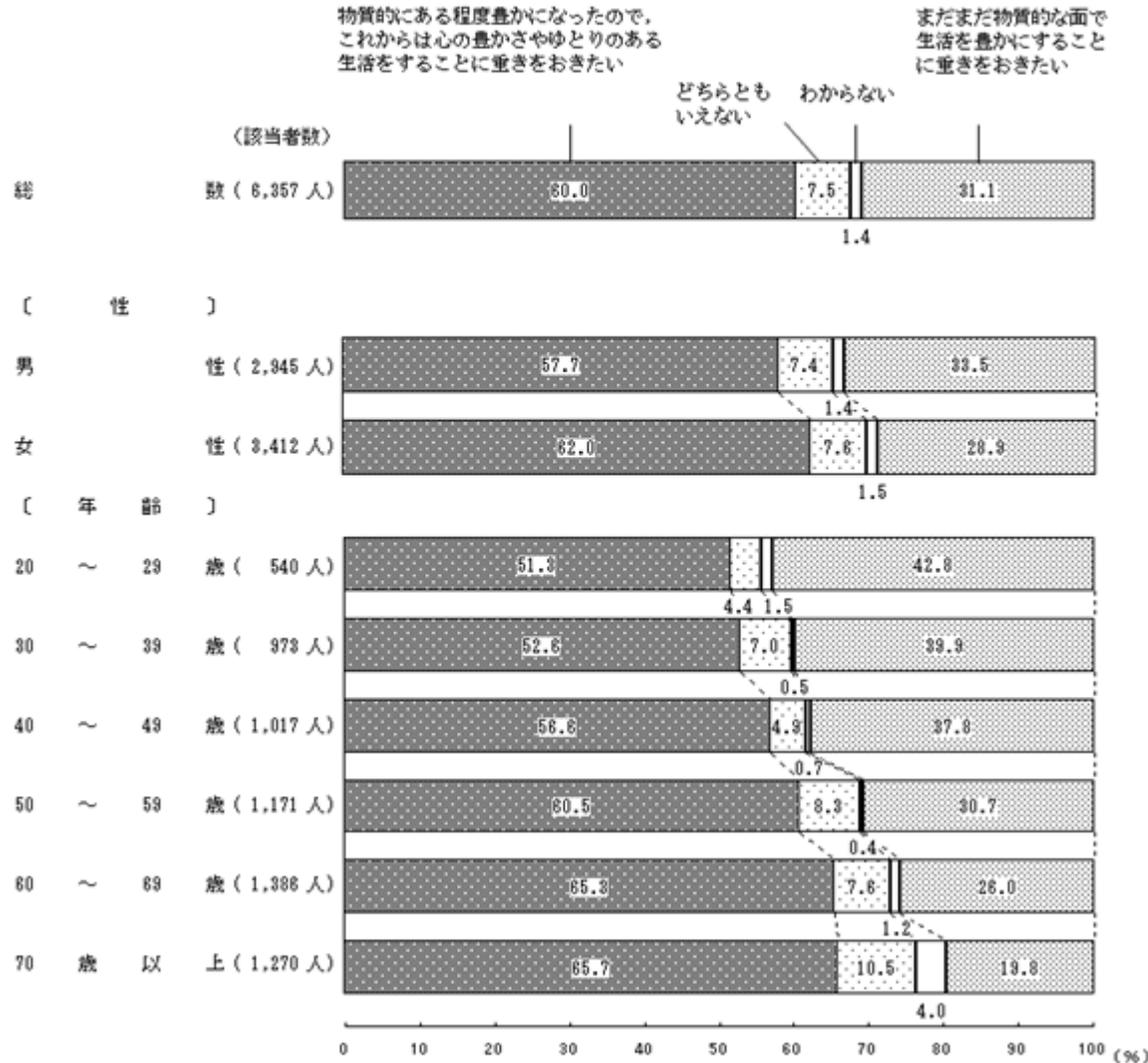
知っている社会保障の窓口と利用したことがある窓口



資料：厚生労働省政策統括官付政策評価官室委託「社会保障に関するアンケート調査」(2010年度)

参考① 豊かさに関する意識

これからは心の豊かさか、まだ物の豊かさか



今後の生活において、これからは心の豊かさか、まだ物の豊かさについて聞いたところ、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活することに重きをおきたい」(以下、「これからは心の豊かさ」という。)と答えた者の割合が60.0%、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」(以下、「まだ物の豊かさ」という。)と答えた者の割合が31.1%となっている。

前回の調査結果と比較してみると、大きな変化は見られない。

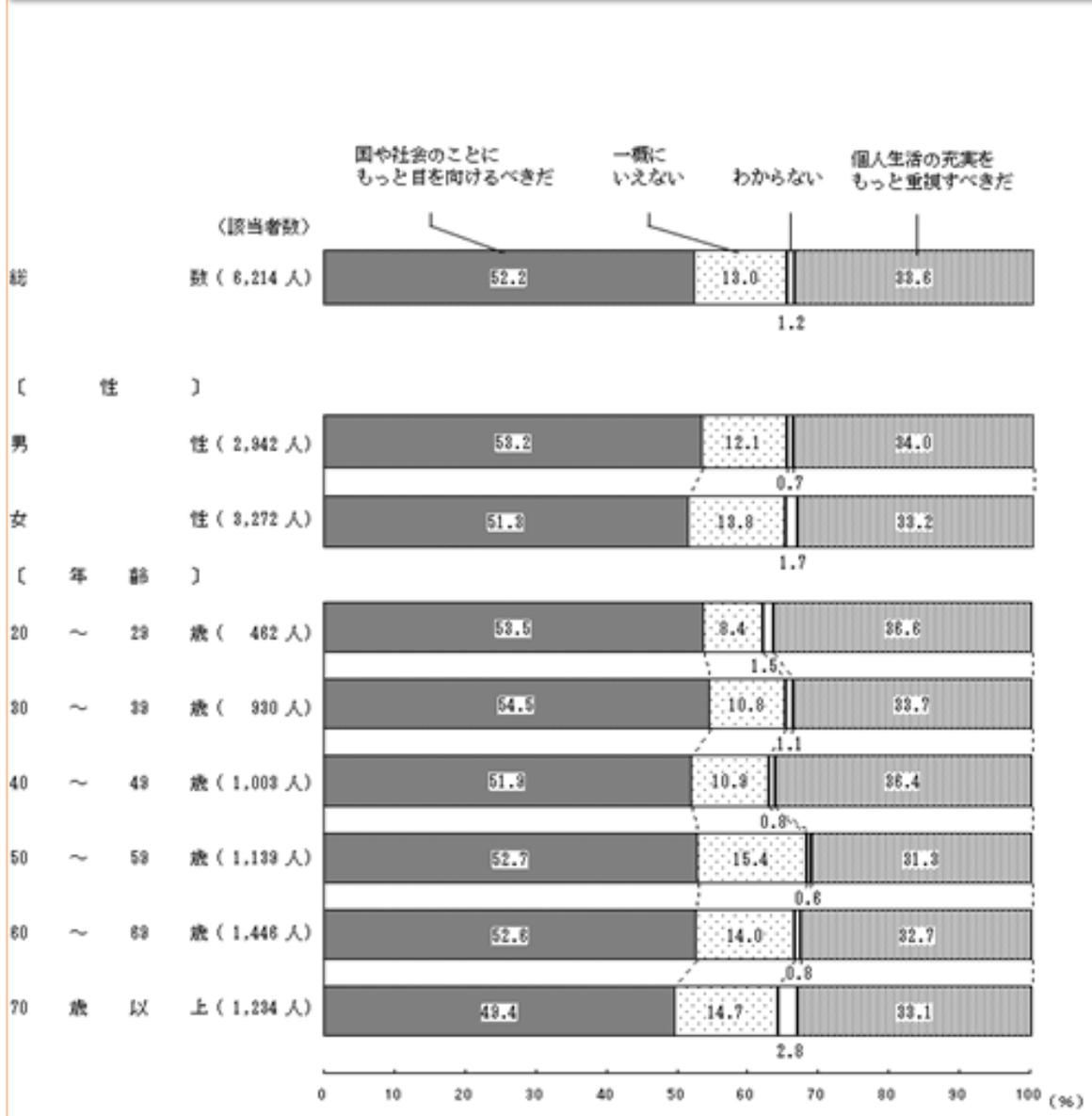
性別に見ると、「これからは心の豊かさ」と答えた者の割合は女性で、「まだ物の豊かさ」と答えた者の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

年齢別に見ると、「これからは心の豊かさ」と答えた者の割合は60歳代、70歳以上で、「まだ物の豊かさ」と答えた者の割合は20歳代から40歳代で、それぞれ高くなっている。

性別・年齢別に見ると、「これからは心の豊かさ」と答えた者の割合は男性の60歳代、女性の50歳代から70歳以上で、「まだ物の豊かさ」と答えた者の割合は男性の20歳代から50歳代、女性の20歳代から40歳代で、それぞれ高くなっている。

参考② 社会志向・個人志向

社会志向か、個人志向か



・ 国民は、「国や社会のことに もっと目を向けるべきだ」という意見と、「個人生活の充実をもっと重視すべきだ」という意見があるが、このうちどちらの意見に近いか聞いたところ、「国や社会のことに もっと目を向けるべきだ」と答えた者の割合が52.2%、「個人生活の充実をもっと重視すべきだ」と答えた者の割合が33.6%となっている。なお、「一概に いえない」と答えた者の割合が13.0%となっている。

前回の調査結果と比較してみると、「国や社会のことに もっと目を向けるべきだ」(56.6%→52.2%)と答えた者の割合が低下している。

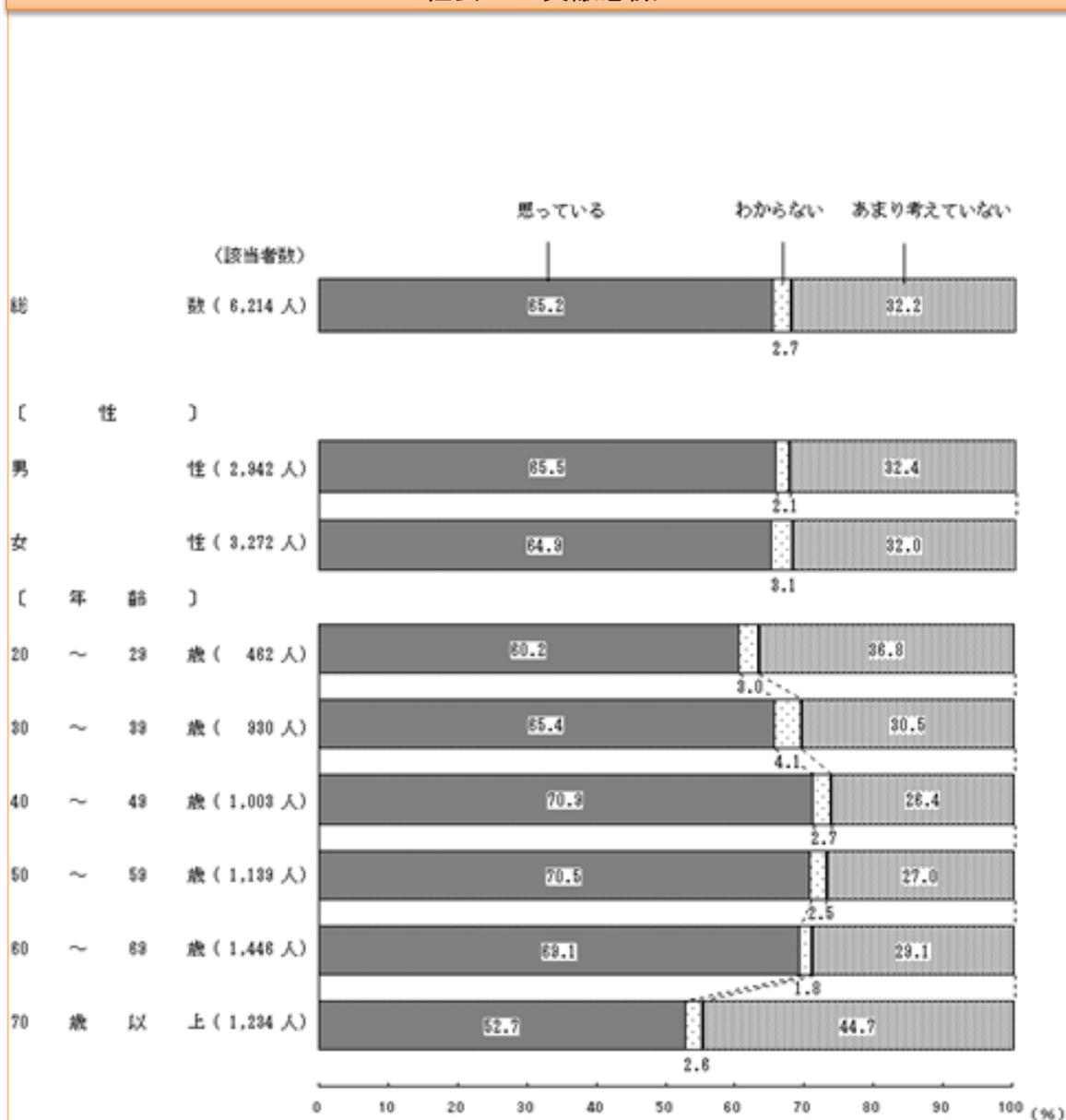
都市規模別に見ると、「国や社会のことに もっと目を向けるべきだ」と答えた者の割合は大都市で、「個人生活の充実をもっと重視すべきだ」と答えた者の割合は町村で、それぞれ高くなっている。

性・年齢別に見ると、「国や社会のことに もっと目を向けるべきだ」と答えた者の割合は男性の70歳以上で、「個人生活の充実をもっと重視すべきだ」と答えた者の割合は男性の20歳代、40歳代で、それぞれ高くなっている。

出典：平成22年 内閣府「社会意識に関する国民調査」

参考③ 社会への貢献意識

社会への貢献意識



日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っているか、それとも、あまりそのようなことは考えていないか聞いたところ、「思っている」と答えた者の割合が65.2%、「あまり考えていない」と答えた者の割合が32.2%となっている。

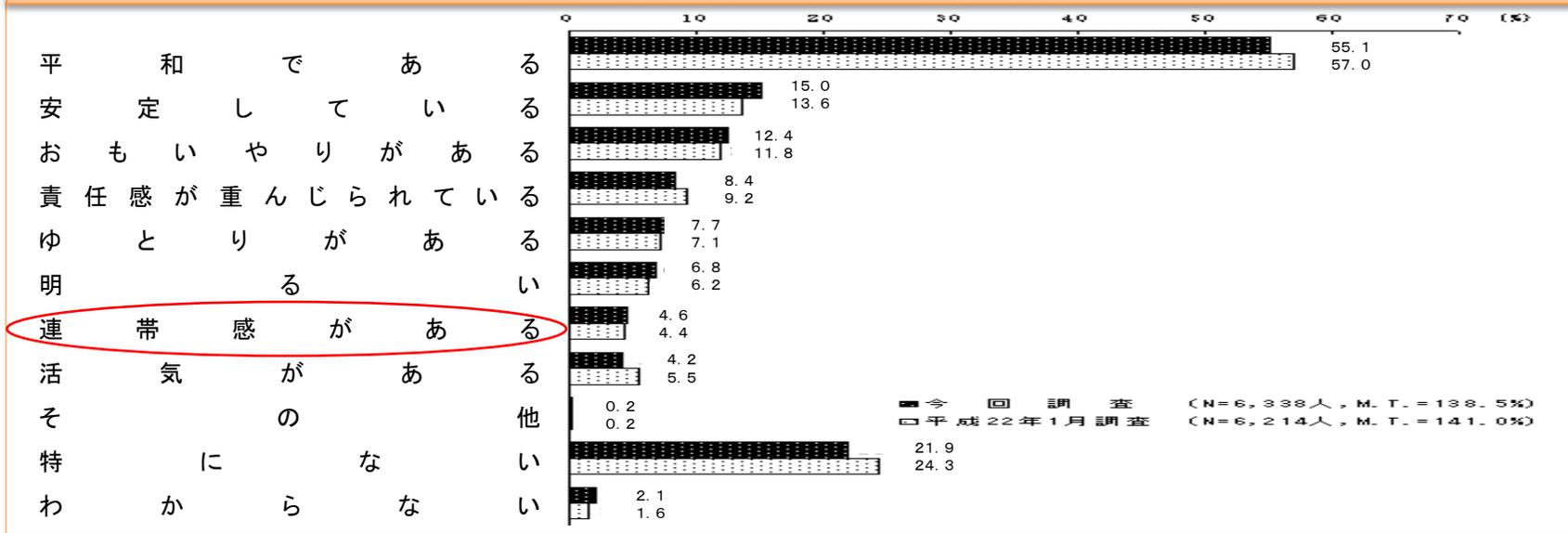
前回の調査結果と比較してみると、「思っている」(69.3%→65.2%)と答えた者の割合が低下し、「あまり考えていない」(28.5%→32.2%)と答えた者の割合が上昇している。

年齢別に見ると、「思っている」と答えた者の割合は40歳代から60歳代で、「あまり考えていない」と答えた者の割合は20歳代、70歳以上で、それぞれ高くなっている。

性・年齢別に見ると、「思っている」と答えた者の割合は男性の50歳代、女性の40歳代から60歳代で、「あまり考えていない」と答えた者の割合は男性の20歳代、70歳以上、女性の70歳以上で、それぞれ高くなっている。

参考④ 現在の世相

現在の世相(明るいイメージ) (複数回答)



現在の世相(暗いイメージ) (複数回答)

